

Amir Tsarfati 氏 中東情勢アップデート 2018年 1月 13日公開 初ユーチューブライブ

.....

アミール・ツアルファティです。初めてのユーチューブライブを行います。現在はエルサレムにいます。ずっとユーチューブライブを設置したいと思っていたので、今、とてもワクワクしています。フェイスブックは、キリスト教の教えを伝えている者にとっては、良好な環境ではなく、私の知っている人も多くが「フェイスブック刑務所」に入れられていますから、私もいずれ使えなくなるでしょうし、別の場所を確保する必要をずっと感じていたのです。今回、上手く行けば、今後はユーチューブで配信して行きたいと思っています。ですから、どうか皆さん、ユーチューブのアカウントを作って、Behold Israelのチャンネル登録をしておいてください。この下の詳細の欄に、その方法の仕方を書いたページのリンクを貼っておきます。そうすれば、私がユーチューブのライブをする時はいつでも、携帯やパソコンにお知らせが入って、アップデートをご覧いただく事ができますから。

ということで、ユーチューブライブ記念すべき第一回目です。フェイスブックライブは一年近くやって来て慣れているのですが、ユーチューブはよくわからないので、何かとトラブルがあるかも知れませんが、どうかお付き合いください。こうして、ユーチューブでメッセージ配信が出来ることをとても嬉しく思います。また、これによってさらに視聴者が増えると思っています。現在、登録者数は65,000人を超えましたが、視聴者はそれよりもはるかに多いですから、そういった人たちが定期的に視聴していただければと思っています。そうすれば、仮にフェイスブックが使えなくなったとしても、メッセージを伝える手段が残りますからね。私たちはその後のことを常に備えておかなければなりません。フェイスブックが使えなくなった後、それからユーチューブも、です。ですから、皆さん全員には、ニュースレターを登録されることもお勧めしているのです。ウェブサイトからご登録くだされば、毎週その週のニュースや、ユーチューブや、フェイスブックでの私のライブメッセージや、手記の全てがまとめてメールで届きます。

ということで、記念すべき第一回目のユーチューブライブですが、すでにたくさんの方がご覧になっていますね。メキシコ、パキスタン、カナダ、イギリス、アメリカ合衆国、ベルギー、イスラエルから、アメリカ合衆国の他の地域から、ラスベガス、テネシー、オレゴン州のポートランド、カナダのブリティッシュコロンビア、ワオ！ジャマイカ！さらにパキスタンから！すごい祝福です。皆さん、ありがとうございます。フェイスブックでいつもしていた事ですが、コメントされる時はどうか「Watchman from クロアチア」とか「Watchman from 日本」というように、どこのWatchman/見張り人であるかを書いてください。それが私たちであり、私たちはWatchman/見張り人ですから。神が、私たちを使ってこれから起ころうとしていることを、世に伝えようとされているのです。だから、「Watchman/見張り人」というのが私たちの肩書である、と私は心の底から信じています。「スイスの見張り人」「クロアチアの見張り人」ジャマイカ、カリフォルニア、…ワーオ！

皆さんに神の祝福がありますように！

I love you all!

では、お祈りから始めて、中東情勢アップデートに入りましょう。

お父様、この素晴らしい場所、ユーチューブに感謝します。これによって、世界のこの場所で、実際に何が起きているのか、また、私たち世界中のクリスチャンにとって、それが何を意味しているのかを伝える事が出来ています。

お父様、感謝します。確かにその日が近づいていることを、私たちは目のあたりにしています。そして、「約束してくださった方は、真実であられる」という言葉が、真実である事に感謝します。また、私たちは、その日が近づいているのを目のあたりにしているだけでなく、その時、季節が、どれほど緊迫しているかを感じています。

お父様、あなたに感謝し、あなたを祝福します。どうか、この配信の技術面から内容、霊まで、全てをあなたがお守りください。

イエスの御名によってお祈りします。

アーメン。

皆さん、シャローム。非常にたくさんの国からご覧いただいているのが分かります。その国に、ビホールドイスラエルをフォローしてくださっている人がいるなんて、知らなかった国の名前も見られます。

まずは、この数日間に表面化した、とても興味深い出来事から始めましょう。それが起こったのは2週間以上も前ですが、今になって別の詳細が我々の所に聞こえて来たのです。でも、そのクリスマスイブの出来事をお話する前に、フェイスブックとアプリで、既に私が報告したことについて、お話したいと思います。1月5日、イスラエルが再びダマスカス郊外を攻撃しました。それについて、私はF-16が離陸した空軍基地の近くに住んでいますので、個人的には知っていましたが。今回は3回攻撃をしていて、1回目は午前2:40、次に午前3:00、それから午前4:00でした。シリア軍が報告したのは、少なくとも攻撃の内の一つは、レバノンの領空からで、もう一つはイスラエルから、そして3番目は、我々が発射した地対地ミサイル。これらのすべてが、ダマスカス東側のはずれにあるシリア空軍基地に命中。そこは、イランがヒズボラに渡す武器を保管している場所です。イスラエルは、2018年に入っただけで、シリアが理解するようにしたのです。

「2018年も、我々はいかなる武器もヒズボラの手には渡すことは絶対に認めない。イランがそこに駐留することも絶対に認めない。」

基本的には、そういうことです。また、ベニヤミン・ネタニヤフが発言しています。

「我々には、流れを変えるような武器が、シリア領土からヒズボラの手には渡すことは絶対に認めないという、長年の政策がある。この政策は変わらず、必要であれば我々は行動をもってそれを証明する。」
私たちは、自分たちがやったとは言っていません。ただ、イスラエルがそれを行なったことは、首相の発言が実に明確に告げています。何人かの方がコメントされたように、イザヤ書17:1がすぐそこまで迫っています。イランの全ペテン師たちが、今はダマスカスに入ってきていますから。イスラエルがダマスカスを攻撃するとすれば、それはこれらのことを阻止するためです。私たちには、その攻撃によってダマスカスが全滅する可能性があることも分かっていますね。これが1つ。イランの行動と、それからシリアの中にいるそのペテン師たちについてでした。

それから、その数日後の1月9日に起こった出来事は、これによってロシアが激怒していて、同時に非常に心配しています。1月9日、多数の小さなドローンによる攻撃が始まりました。1ポンド(約450g)の爆発物を搭載した、小さなドローン13機です。具体的に言えば、1ポンド近くの装薬と、玉を糊付けして、榴散弾の形に形成したものです。想像できるでしょうか？小さいと言っても、10機も蜂のように、フメイム空軍基地の上を飛んでいたのです。ここは、ロシアがシリアから借りて使用している空軍基地で、以前お伝えした、プーチンがシリアを電撃訪問した際に、バッシュール・アサドがプーチンの国民によって屈辱を受けた、あの空軍基地です。そこで13機のうち、10機が爆発物を積んで、ロシアの空軍基地を爆破させに行く途中で、それから、さらに3機は南部のタルトゥースで、ロシアの海軍基地で爆発させるところだったのです。これは物凄いことで、ずっと続いているのに、ロシアにはさっぱり分からないのです。1つ言わせてもらおうと、ロシアは心配しているだけでなく、皆さん、理解しておいてください。この小さなドローンは非常に低空を飛行し、大きなレーダーでは探知がほとんど出来ません。人々の頭のすぐ上を飛行しますから。これは、世界中の全ての国にとって、悪いニュースですよ。想像できますか？これらのドローンは、インターネットで購入でき、どこのテロ組織にでも、基本的には個人にも、誰にでも配送が可能なのです。これはイスラエルにとっても、大きな頭痛の種ですよ。ガザからドローンが飛んで来るかも知れず、レバノンやシリアから、イスラエルに飛んで来るかも知れないのですから。しかし敵の陣地にいる、あらゆる国の軍隊にとっても、これは頭痛の種なのです。こういった種類の飛行物体は非常に小さく、非常に低空を飛行して標的を目指しますから、探知するのが物凄く難しいのです。具体的な距離はよくは分かりませんが、5マイル(8km)ほど飛行して、元の場所に戻ることが出来るのです。または、必要であれば真っ直ぐ標的に飛んで行って、そのまま爆発することも可能です。また、爆破物はかなり威力があるだけでなく、1ポンドの爆破物と榴散弾は破壊的です。それによって、基地や建物が破壊されることはないでしょうが、兵士を殺害するには十分で、それは、どの軍隊も避けたいのです。

と、こういう事が現在起こっていますが、シリアはこれに関してさっぱり分からず、ロシアは、それらをいくつか入手したと言っていて、電子戦争システムが空中でそれらを叩き落とした、と彼らは報告しています。とても面白いのが、彼らがこの後言っていた認識というのが、ISISが任務遂行のために用いている、この手の商業用の無人飛行体を見たことがある、彼らは、その小さな物体にGPS(全地球測位システム)が搭載されていて、それを大きな軍隊が所有している、電子戦争システムに改造することが出来る、と言っていたのです。大きな軍隊は、こういったものに慣れていないのです。大きな軍隊は、大きな航空機に慣れていますが、こんな小さなドローンには慣れていません。これは空中ではほんの点に過ぎませんから、そこにあると気づいたときには、それが爆発するのです。だからこれは、大きな頭痛の種となるでしょう。イスラエル軍は、特にこの脅威となり得るものに対応しようとしています。

次に、最も興味深い事ですが、これら全てをお伝えしている理由は、イランもロシアも大変大きな問題を抱えている、という事を皆さんが理解するためです。

そこで今度は、スルタン・エルドアンがこの数週間に実際に行なっている事をお伝えします。それによって、サウジやエジプト、その他の周辺諸国が不安になっています。なんと、クリスマスイブの日、エルドアン大統領がはるばるスーダンの都ハルツームまで飛び、スーダンとの協議に調印しました。その協議とは、「テロと戦うための協議」と名付けられました。皆さんがご存知ないのは、この協議には多数

の契約が付随していて、その1つを知って、私たちは驚愕したのですが、これは6,500億ドルの契約ですよ。それは海軍基地から始まって、スーダンの港にある免税地帯の小麦や麦の倉庫、新しい大学、新しい病院、新しい発電所、これら全てがトルコによって行われます。これだけではありません。アラブ人たちが最も不安に陥れているのは、スワキン島という名の小さな島で、それはスーダンから枝分かれして、海に舌のように突き出ているのです。これが何年も前は、オスマン帝国のものだったのです。以前はメッカの巡礼者が、ここから船に乗っていた場所です。彼らはそこまで歩いて来て、それから船に乗って紅海を渡り、まっすぐサウジアラビアのジッダとメッカに向かったのです。そこで何が起こったかというと、トルコがスーダンに交渉したのは、そのスワキン島の支配、それも完全支配です。この島は、かつて1900年代はイギリスが支配していましたが、放置されていたのです。1905年から1909年まで破棄されていて、ポートスーダンは、その代わりに造られた港です。そこへエルドアン大統領が、スーダンの大統領の所へやって来て、言ったのです。

「我々の助けが必要ならば、喜んで助けよう。しかし、一つ条件がある。あの島を返してくれ。」サウジアラビアから、少し海を挟んで向かい側の島を、トルコが支配しようとしているのです。サウジの問題が、想像出来ますか？トルコにとっては、そこは観光地や、トルコ国民がそこに引っ越して住むのに使えると考え、なんと、スーダンの大統領もそれに合意したのです。エルドアン大統領は、その動きを「生まれ変わり」と名付けました。基本的には、私たちがずっと言ってきた事ですが、エルドアン大統領は「オスマン帝国が自ら復活した」と言っているのです。何十年も前に彼らが所有していたものが、再び彼らの手に戻ったのです。

ここで、よく考えてみてください。トルコがここ、そしてイスラエルがここ。それがこれからは、トルコがイスラエルの反対側にもいるのです。つまり、トルコ、イラン、ロシアの同盟がこちら側にいて、そして、スーダンとトルコの同盟がその下に来ます。こちら側のリビアは省いたとして、エゼキエル38、39章で、イスラエルへの攻撃が告げられていますが、国々が整い始めているだけでなく、今では彼らが同盟を組み始めているのです。その同盟は、基本的には北東部と南西部の両方からイスラエルを押しつけて、そうすると、イスラエルへの侵略がとても効果的に出来るようになります。

ところで、だから聖書には、イスラエルが戦い、イスラエルが自分の力、自分の軍力で戦うとは書いておらず、聖書には、神がご介入され、神が彼らをイスラエルの山々で滅ぼす、と書かれています。だから、エゼキエル書が約束しているその勝利については、イスラエルは賞賛を受けるべきではありません。

素晴らしいと思いませんか？

戦争が起こる、それに誰が関わるかということが、私たちに告げられているだけでなく、それがどのように終わるのかも、私たちは知っているのです。私たちは、これら全てを理解しています。それから言うておきますが、エジプトがこの事で恐怖に怯えているのです。トルコは彼らの敵で、南側からエジプトを攻撃して、戦争を始めることが出来ますから。またサウジアラビアも、このトルコとスーダンの同盟について非常に恐れています。この島を使って、イエメンのフーシ派が、引き続きサウジアラビアを攻撃するための武器を簡単に運ぶことが出来るからです。このようにとても興味深いのですが、スンニ派穏健諸国が、イランとトルコの同盟によって、更にイスラエル側に傾いていて、彼らはトルコの動きと、イランの拡大において、イスラエル以上に脅威を感じているのです。

ここで、サウジとエジプトの両方が言ったことを理解してください。

トランプのエルサレム宣言に関して、彼らは、「イスラエルにもアメリカにも敵対しない。パレスチナ人は、ラマツラか、アブディスで満足するだろうから、彼らの首都としては、エルサレムが唯一交渉の選択肢ではない。」彼らは、自分たちを守るためには、パレスチナ問題を犠牲にする必要がある事を理解しているのです。彼らは実際、この大混乱、協議の中で、イスラエルが唯一助けになる要因として見ているのです。周辺の多くの国が、トランプ大統領であるアメリカと契約を結ぶことを恐れています。しかし、皆さんもご存知の通り、アメリカも現在、アメリカの世話をしています。「アメリカ第一」、覚えていますか？これは、トランプ大統領のスローガンでした。だから、何かが起こったときには、他でもないイスラエルから直接助けを得るのが一番だという事を、彼らは理解しているのです。そこで、エゼキエル 38 章で、イランとロシア、スーダン、それからトルコ側によるイスラエル攻撃を、シェバとデダン、つまりサウジアラビアが非難する、ということが理解できますね。

このように、素晴らしいことが起こっています！というと、「何が素晴らしいんだ！？」と思うでしょう。素晴らしいのは、神の御言葉は真実であり、正確で、精密で、周りの他の人たちは、全体図が見えていませんから、皆わけのわからないことを言っています。ここから、このアップデートの締めくくりに繋がるのですが、神が私の心に強く語られていることです。多くの人から

「アミールさん、どうしてそこまで聖書預言にのめり込んでいるのですか？」

と聞かれます。だから私は

「聖書預言にのめり込んでいるのは、私だけじゃないよ。イエスご自身に聞いてください」

と言うのです。彼が何かをされるたび、それはこの預言者によって語られた、あの預言が成就するためだ、とあります。それでも足りないなら、イエスご自身がエマオへ向かう道中で、弟子たちに言われたのです。彼らは、いつも預言について聞いていたのに、決して信じなかった。だから、彼らは主が何のために来られたのかを理解していなかったのだ、と。預言者の言葉を読んでいながら、それを信じていないクリスチャンが、どれぐらいいるでしょう？預言は過去のことだけでなく、現在のことも告げていて、将来のことも告げています。そして、イスラエルの人たちは、メシアについての預言をたくさん知っていたのです。しかし彼らは、神の御言葉が生きていて、預言者の言葉が今日も明日も有効である、ということを感じていなかったのです。だから、聖書によれば、ヨハネ 20 章で弟子たちが墓に来た時の様子が、こう書かれています。弟子でさえ、墓に来て、墓が空っぽなのを見ても、メシアがよみがえられるという預言全体をまだ理解していなかったのです。読んでみましょう。これは物凄く致命的なことですから。

8 そのとき、先に墓に着いたもうひとりの弟子も入って来た。そして、見て、信じた。

9 彼らは、イエスが死人の中からよみがえらなければならないという聖書を、まだ理解していなかったのである。

(ヨハネ 20:8~9)

分かりますか？御言葉はそこにあったのです。キリストがよみがえられる、700 年前からそこにあったのですから。しかし、彼らは理解していなかった。彼らは、信じていなかったからです。彼らは、イスラエルのメシアが死に、葬られ、よみがえらるなんてことが可能だなんて、考えもしなかったのです。

だから、それが起こったとき、弟子でさえ困惑したのです。だから皆さん、分かるでしょう？自分で「クリスチャン」と自称する人たち、聖書を信じているという人たちに、聖書に記載されていることは必ず起こる、これは必ず起こる、と私が言うと、彼らが物凄く懐疑的になるのを目の当たりにしたとき、私は本当に信じられません。

「それは、分からないな。」

「携挙が聖書に適っているのか、分からないな。」

「再臨が聖書に適っているのか、分からない。」

「エゼキエル戦争、ゼカリヤ戦争、千年王国も本当だか分からない。」

これらのことは全部、聖書に記されていることです。それも、新約聖書だけでなく、旧約聖書の中でも、預言者イザヤ、ゼカリヤ、ミカ、ダニエルによっても、数多く告げられていることです。これらのことは、全部、はるか昔から告げられているのです。

それが面白いと思いませんか？イエスが生まれた時、——イエスが生まれた時ですよ？——極々少数の人だけが、それを喜んだのです。彼らの生きている時代に、まさに預言が成就したことを信じた人たちです。だから彼らは、物凄く興奮したのです。だからシメオンは言ったのです。

「主よ。もう私を連れて行ってくださって構いません。私はイスラエルの栄光を、異邦人を照らす啓示の光を見ましたから。今、ここにられます。もう、私は死んでも構いません。」（書記注：ルカ 2:25～32 参照）

これこそが、私たち全員のとるべき態度です。私たちは、現在の情勢にワクワクするべきです。神が動いておられる、目的があって、物事が起こるのを神が許可しておられる、という事を、私たちは理解しなければなりません。これらのことは、何年も前に預言され、約束されていたことなのです。そして、私たちは選ばれた世代です。これら全ての成就を目撃している、選ばれた世代なのです。それがどうして、まるで何も起こっていないかのように軽視できるのでしょうか？皆さん全員にお伝えしますよ。私たちは物凄い時代に生きているのです。前代未聞の時代です。だからどうか、皆さん御言葉に留まり、世の占める部分を減らしましょう。言っておきますが、世はあまりにも多くのフェイクニュースや、あまりにも多くの誤情報を垂れ流して、世は皆さんを弱らせようとするでしょう。しかし聖書には、この世での、信者としての私たちの人生は競走のようだ、と書かれています。競走なのです。そして、競走とは、簡単なものではありません。そして聖書には、私たちは忍耐をもって競走を走らなければならない、と書かれています（ヘブル 12:1 参照）。これは、素人がする事ではないのです。しかも聖書には、私たちは勝つために走らなければならない、とあります（書記注：第一コリント 9:24～27 参照）。ただ歩くのではなく、私たちは走らなければならない。だから、皆さん全員にお伝えします。私たちにはゴールが見えて来ているのです。恐らく私たちは、ゴールを見た最初の世代でしょう。だから主は、私にこの聖句を下さったのだと思います。

7 万物の終わりが近づきました。

（第一ペテロ 4:7a）

私は、確かに万物の終わりが近づいていると、心の底から信じています。だから、信者である私たちは、互いに愛し合わなければならない、私たちは、互いを思いやらなければならない。そして、私たちは、御言葉に浸っていなければならない。言っておきますが、世の中は大きな磁石のようで、私たちは他

の皆のようになりたい。私たちは他の皆から好かれたい、皆に見られ、感謝されたい。それは私にも分かりますよ。ただ、皆さんにお伝えしたいのは、神はそういったことは見てはおられません。神は、あなたの心を見ておられ、私たち全員を見ておられます。だから私たちは現実を理解し、現実に対抗するためには、御言葉に浸らなければなりません。物事は、楽にはなりません。実際には、もっと大変になって行きますよ。イエスは、言われましたね。

33 …あなたがたは、世にあっては患難があります。しかし、勇敢でありなさい。わたしはすでに世に勝ったのです。

(ヨハネ 16:33)

皆さん全員を、心から励ましたいと思います。とにかく、御言葉に留まって、しっかりと忍耐をもって、競走を走り続けましょう。そして、聖書が告げる通り、

2 信仰の創始者であり、完成者であるイエスから目を離さないでいなさい。

(ヘブル 12:2a)

お祈りしましょう。

お父様、私たちに下さった、この素晴らしい約束に感謝します。

私たちは、圧倒的な勝利者です。

私たちには、素晴らしいことが約束されていて、それは目が見たことのないもの、耳が聞いたことのないもの、人の心にさえ思い浮かんだことのないものです。あなたが私たち全員に用意してくださった、素晴らしいこと。

御父の右に座しておられるイエスが、私たちのために場所を備えてくださっていて、もうすぐ、私たちを迎えに来てくださいます。私たちを、主の元に迎え入れ、主のおられるところに、私たちも居らせるためです。

今夜、エルサレムより、また世界中の全ての場所から、あなたを祝福します。

この全てを、イエシュアの御名によって祈ります。

アーメン。

アーメン！皆さん、このビホールドイスラエル記念すべき第一回目のユーチューブライブ情勢アップデートをご覧いただき、ありがとうございました。今回の数字や統計、解析を調べて、上手く行くようなら、これからも情勢アップデートはフェイスブックではなく、ユーチューブで行おうと思っています。いずれ、フェイスブックは使えなくなると思うので、ここを拡大しておかなければなりません。そうなれば、こちらが主な伝達のチャンネルになると思います。皆さん、どうかウェブサイト beholdisrael.org より、ニュースレターをご登録ください。また、無料アプリもダウンロードしてください。アプリストアより「Behold Israel」です。それから、私のインスタグラムをフォローしてください。私たちのイスラエルツアーや、伝道ツアーでの素晴らしい写真がご覧いただけます。続けて [beholdisrael](http://beholdisrael.org) です。私をフォローして、素晴らしい写真をご覧ください。

以上です。近々、2019年のイスラエルツアー予定を発表します。2018年のツアーは既に満席ですが、2019年のイスラエルツアーに参加ご希望の方、聖書教師が私、他にもクリスチャンのツアーガイドで、イスラエルの地を探索します。皆さんがいつも読み、夢見ていることを、ぜひご自分の目でご覧ください。詳細は info@beholdisrael.org までお問い合わせください。

ありがとうございます。God bless you! エルサレムより、シャローム！
さようなら。

メッセージ by Amir Tsarfati/Behold Israel : <http://beholdisrael.org/>